

開花期全般に早まる。 適期防除と土壌水分管理で 品質・収量確保。

長岡農業普及指導センター
大豆情報 No.3

代表電話 0258-38-2557
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

1 開花期及び基幹防除時期 ～ほ場ごとの開花期を把握し、適期に防除を実施～

(1) 開花期のめやす

品種名	は種期	本年の開花期
エンレイ	6 月 1 日頃	7 月 18 日頃
里のほほえみ	6 月 10 日頃	7 月 26 日頃

※開花期は、主茎上に 1 花でも開花した株がほ場全体の 40～50%に達した日。

(2) 防除の時期と対象病害虫（注 1）

防除パターン (注 2)		防除回数、実施時期および対象病害虫		
		1 回目	2 回目	3 回目
紫斑病 1 回散布		開花 28 日後 紫斑病・子実害虫	8 月 5 半旬～9 月上旬 マメシンクイガ	—
紫斑病 2 回散布	①	開花 21 日後頃 紫斑病・(害虫)	開花 28 日後頃 紫斑病・子実害虫	8 月 5 半旬～9 月上旬 マメシンクイガ
	②	開花 28 日後 紫斑病・子実害虫	開花 35 日後頃 紫斑病・(害虫)	8 月 5 半旬～9 月上旬 マメシンクイガ

(注 1) 防除方法及び薬剤は、各 J A の栽培暦に従って実施する。

(注 2) 紫斑病の防除薬剤によって散布回数が異なる。

【防除の際の注意点】

- ・ 莢に薬剤がよく付着するようにていねいに散布する。
- ・ 周辺に他の作物がある場合は、ドリフト（飛散）しないよう注意する。

参考 近年の大豆検査成績と紫斑病、子実害虫による格付け

年次	2等級以上 比率 (%)	格付け要因 (%)	
		紫斑病	食害・虫害
令和 7 年	0.4	3.4	0.6
令和 6 年	16.6	0.5	0.5
令和 5 年	12.5	0.4	7.8

重要病害虫である紫斑病とマメシンクイガをはじめとする子実害虫の被害は気象条件等により年次変動が大きく、前年に発生が少ない場合も油断せず適期に防除を実施することが大切です。

2 その他の病害虫防除

(1) ウコンノメイガ（葉巻）～7 月中下旬の降雨が多いと発生しやすい～

- ウコンノメイガは、前年多発生した地域や、生育旺盛なほ場で多発生しやすい。
- 葉巻の発生初期に遅れずに防除を行う。
- 防除のめやす：7 月第 6 半旬（7/26～31）の畝 1 m 当たりの平均葉巻数が 24 個以上あれば、防除が必要。

（２）ハダニ類 ～高温気象下で多発生しやすい～

- 葉裏に寄生し、寄生された葉は表面に小さな白斑を生じる。
- 高温下で発育期間が短縮し急激に密度が高まり、被害が著しいと早期落葉から収量が低下する。
- 多発生が予想される場合は早めに防除を実施する。

（３）葉焼病（右写真）～里のほほえみで発生しやすい～

- 被害茎葉で越冬し、強風雨で感染・発病が進展する。
- 葉に淡黄色～褐色の病斑が見られる。
- 拡大が見られる場合は、農業普及指導センター、JAに相談の上、防除を実施する（発生初期の防除が必要）。

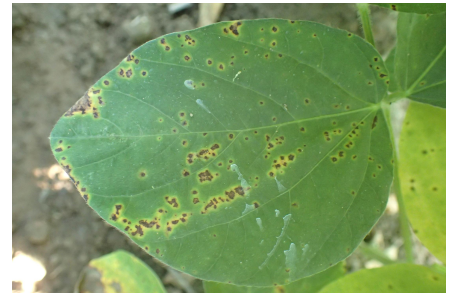


写真 葉焼病の葉表面の病斑

（４）ウイルス株の抜き取り ～褐斑粒の原因を除去～

【ウイルス感染株の症状】

- 濃淡の入り混じったモザイク症状や水疱状の凹凸が葉（特に新葉）に出る、株が萎縮している等
- 開花期頃が最も病徴が見分けやすいので、ほ場をよく観察する。
- 見つけ次第、抜き取ってほ場外に出す。

３ 土壌水分の管理 ～天候に応じた暗渠栓の管理等により、土壌の過乾燥を防ぐ～

（１）降雨後の排水対策

大雨の後は、速やかに地表水を排除することが重要。安全確認を十分に行ったうえで、水路、ほ場内の排水溝の整備・点検を行う。明渠に「つまり」や「くずれ」があれば補修する。

（２）干ばつ対策

開花期から粒肥大初期は、茎葉の生長と粒の肥大が重なり、多量の水を必要とする。少雨で水不足となった場合は暗渠栓を閉じるとともに、必要に応じ畝間かん水を実施し土壌水分を維持する。

４ 雑草対策

開花始めまでに中耕・培土ができなかった場合や、株間の雑草の取りこぼしがある場合は、早急に生育期除草剤を散布する。

５ 農薬使用の際の注意点

- ① 農薬を使用する際は、使用方法・注意事項等を必ず確認し、農薬の使用時期、希釈倍率、散布量等を厳守すること。
- ② 農薬散布時は周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意すること。
- ③ 農薬使用後は防除歴として、記録・保管すること。

本年は水稻の出穂期と成熟期が早まり、農薬が水稻にドリフト（飛散）した場合は米に残留する危険性が高いため、ドリフト防止を徹底する。

○農作業事故に注意しましょう。特に草刈り作業は周囲に気を配ってください。

○農作業時の熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。